

# 中日新聞5月25日朝刊に Helpan171が掲載されました！



## 企業が備蓄 非常時に融通



備蓄用のパンをPRする北森さん

# パン膨らむ災害支援の輪

企業や団体が非常用にパンを備蓄し、災害が起きたときにはお互いに融通し合うネットワーク「Helpan（ヘルパン）171」を、名古屋市瑞穂区の一般社団法人がつくった。期限切れが近づいたパンを有効活用する仕組みもある。自らの備えとしてだけでなく、社会貢献にもつながるとして、県内をはじめ全国に広がっている。

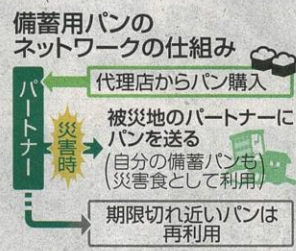
（吉光慶太）

法人は「Breakthrough Bank（ブレイクスルーバンク）」。名古屋市内でシステム開発・運営の会社を営む北森勝也さん（50）が設立。ネットワークは「ヘルプ」と「パン」を掛け合わせ、N.T.T.の災害用伝言ダイヤルの番号にちなんで「Helpan171」と名付けた。

ネットワークでは、主に企業や団体が「パートナー」となり、各地にある代理店を通じて、五年間保存できるパン（一口四十個、税別一万円）を購入する。パンはキャラメルチョコの風味で、北海道の授産施設で作られている。

大地震などの災害が発生した時、被災地域のパートナーは自分たちの備蓄パンを非常食として利用する。ほかの地域のパートナー

## 名古屋の運営法人 全国170パートナー



は、被災地のパートナーや代理店に備蓄パンを送る。必要な量や送り先は法人が現地のニーズを調べた上で各パートナーに依頼する。各地の備蓄数は事前に把握できているため、素早く確実に届くという。五年の保存期限が迫ると、法人がパンを回収して子ども食堂に贈る活動もする。

北森さんが法人を設立したきっかけは、東日本大震災発生時の体験。東京にいる。

た北森さんは、すぐに車で名古屋に帰ろうとしたが、大渋滞で身動きが取れない。コンビニは長蛇の列で食料もない。中央自動車道経由で長野県に入り、二十時間以上ぶりに食事を口にした。

この時から「災害時に貢献できる事業をやりたい」との思いを抱き、同じ興味を持っていた会社経営者らに声をかけ、今年二月に法人をつくった。

パートナーは県内を中心に東北から沖縄県まで、百七十を超えた。北森さんは「予想を上回る勢い。災害への関心はもろろん、社会貢献もできる点が一石二鳥で、多くの事業所に選ばれているのでは」と話している。

パートナーとなるには、法人の代理店にパン購入を申し込む。インターネットで「ブレイクスルーパン」で検索すると、ホームページに代理店一覧がある。